

異常な行動が記録されている事例の概要(年齢順)
(インフルエンザの効能追加承認(平成10年11月)から平成20年3月31日まで)

No.	例番号	性別	年齢	用量	薬剤名	副作用	経過	経過内容	備考	
1	C99-18560	男性	7歳		アミノフィリン セフトリアキソンナトリウム ツロブテロール 塩酸シプロヘパタジン 塩酸アンブロキシール アセトアミノフェン メフェナム酸	排尿障害 振戦 意識レベルの低下 不眠症 錯乱 易興奮性	回復	A型インフルエンザで全身状態が悪く入院。塩酸アマンタジンなど投与開始。翌早朝から、悪寒あり。意識は清明。その後、上肢のふるえ、全身倦怠感あり、本剤投与中止。午後、それまで眠っていたが急に興奮してベッド上で暴れまわる。訳のわからないこともいっている。夕方、落ち着く。	異常-1	
2	B-07009393 (C02-4656)	女性	8歳		ファロベナムナトリウム クラリスロマイシン 硫酸ゼピロム	情動障害 言葉もれ 運動過多 好中球減少	回復 回復 回復 回復	インフルエンザと診断し、塩酸アマンタジン内服開始。 服用3日目、夕方より計算の低下を認める。 服用4日目、学校で朝礼中に角の方へ突然フラフラと歩く。帰宅後口腔内に異物をくわえている。 情動失禁、多弁、多動見られる。 翌日、本剤中止。 投与中止2日目、情動失禁、飲酒時様の多弁・多動認められる。 投与中止4日目、情動失禁、多弁・多動は回復。発熱なし。	異常-2	
3	B-07015352 (C02-972)	女性	10歳		メフェナム酸 セブジニル	意識変容状態	軽快	服用1日目、発熱あり、塩酸アマンタジン投与。 服用2日目、深夜、41.8℃の発熱。家や部屋をぐるぐる歩き回る。幻視を伴い異常言動あり。入院。 服用3日目、意識清明となる。	異常-3	
4	B-06026877	男性	12歳		アセトアミノフェン	異常行動	回復	インフルエンザと診断し、塩酸アマンタジン投与。4時間後、自宅2階へ上がり、ベランダの柵に足をかけ飛び降りようとしていたため、家人が引き止めた。その後本剤服用しているが、異常行動はみられていない。	異常-4	
5	B-07003835	男性	13歳		アセトアミノフェン	異常行動	回復	インフルエンザA型陽性にて塩酸アマンタジン処方。同日夜、39.0度、熱さましシートを頭にはった時、シートにバイ菌がついていると言ってはざとり、しばらくボーとして家の中を歩きまわっていた。その後就寝。投与2日目、異常行動はみられなかった。	異常-5	
6	B-07024395	男性	10歳代	50mg	塩酸エピナスチン レボフロキサシン トラネキサム酸 セラペブターゼ 塩酸アンブロキシール d-マレイン酸クロルフェニラミン アセトアミノフェン	異常行動 幻覚	不明 不明	塩酸アマンタジン服用1時間後に、よくわからない、聞き取れないことをいい出し、幻覚が起こった。飛び跳ねてどこかに行こうとしたため母親が抑えようとしたが、抑えきれず、父親と2人でも抑えきれなかったため、救急車を呼び入院。検査内容は不明だが、異常ななかったとのこと。	異常-6	2008/4/1以降追加報告
7	B-06008363	男性	17歳		リン酸オセルタミビル	自殺既遂	死亡	オセルタミビル服用し、2時間後に裸足のまま国道に飛び出しトラックにはねられ死亡。 患者はオセルタミビル処方前に塩酸アマンタジンを服用していた。	異常-7	

異常な行動が記録されている事例の概要(年齢順)
 (インフルエンザの効能追加承認(平成10年11月)から平成20年3月31日まで)

例	識別番号	性別	年齢	薬剤	副作用	経過	経過	備考	備考
8	B-07009707 (C03-2033)	男性	38歳	マレイン酸フルボキサミン セフジニル 塩酸アンプロキシオール 酸化マグネシウム 鎮咳配合剤	錯乱状態 うつ状態	回復 不明	A型インフルエンザを疑い、塩酸アマンタジンなど3日間投与。 投与終了2日後、物忘れがひどい、集中力が無い、仕事に支障が出ているとの 主訴で受診。その夜、自宅で急性錯乱状態となる。 自らおかしいと警察へ通報し、警官に付添われ精神科を受診。急に外へとび 出そうとする等がみられたことから、入院となる。	異常-8	
9	B-05001691	男性	81歳	ニトレンジピン フロセミド アロプリノール 塩酸タムスロシン アスピリン ファモチジン 酪酸菌配合剤 エチゾラム	激越 幻覚 錯乱状態	回復 回復 回復	A型インフルエンザのため、塩酸アマンタジン服用開始。 投与2日目、夜間に部屋の中を歩き回ったり、自傷行為をした。 投与5日目、本剤投与中止。その後徐々に回復。	異常-9	
10	C98-18236	女性	99歳	ジアゼパム スピロラクトン シルニジピン 塩酸プロピペリン ジゴキシン アルファカルシドール	易興奮性 錯乱 幻覚 不安 独語 言葉もれ	死亡	アマンタジン投与開始5日目、目がらんらんとして興奮状態になり幻覚症状に よりベッドの下をのぞき込む動作が何度も見られた。 投与7日目朝、ベッドの柵をはずし、たちあがり、不穏状態。 投与8日目朝、ベッドから転落、顔部裂傷・打撲、右手打撲。 投与9日目朝、ベッド上座位にしてもすぐに横にくずれる。 投与10日目朝、ベッド上ぐるぐる回りベッドのさくに顔をはさんだり、体動が 激しくなって、独語が多くなる。 投与11日目午後、多弁、ベッド上体動が激しい。本剤投与中止。 投与中止1日目の早朝も入眠せず体動が多い。 投与中止2日目の朝、多弁で体動が活発、ベッドから降りようとする。 投与中止4日目の朝、訪室の際に、ベッドの鉄さくの間より頭～肩～腕を突っ 込んで上半身垂れ下がった状態で発見される。呼吸停止、顔面(四肢)のチ アノーゼ著明。3時間後、永眠。	異常-10	